

訃報・追悼：横浜市立大学眼科 竹内正樹医師を偲んで

私たちの教室である横浜市立大学医学部眼科学教室の准教授であった竹内正樹先生が、2024年9月20日に海外出張中にご逝去されました。享年43歳の若さでの旅立ちに、深い悲しみを禁じ得ません。竹内先生は、9月15日に第20回国際ベーチェット病学会が開催されるモロッコ・マラケシュへ向けて出国されました。9月16日には、私たちの共同研究先であるフランスのストラスブール大学にて研究打ち合わせに臨まれましたが、同日に重篤な鼻出血と皮下出血の症状が見られ、同大学の病院に緊急入院されました。その後、9月18日に脳出血を発症され、懸命の治療も及ばず、9月20日に永眠されました。

竹内先生は平成18年4月に横浜市立大学で初期研修を開始されました。当初から非常に真面目で優秀な方であり、その人柄と能力に惹かれて、私たちの眼科学教室への入局を幾度も勧誘したことが、まるで昨日のことのように思い出されます。

その後、竹内先生は横浜市立大学大学院(眼科学専攻)での研鑽を経て、教室のメインテーマであるベーチェット病の研究に真摯に取り組まれました。大学院在籍中の平成24年11月にはアメリカ国立衛生研究所(NIH)、国立ヒトゲノム研究所のDan Kastner博士の研究室に留学され、そこでベーチェット病の免疫関連遺伝子に対する網羅的なSNP解析を行い、疾患に関与する新規遺伝子を複数同定されました。さらにそれらの遺伝子の機能解析を通じ、自然免疫と粘膜バリア機能の役割を解明し、病原微生物が本疾患の発症に関与する可能性について新たな仮説を提唱されました。これらの成果は世界最高峰の国際雑誌『Nature Genetics』に筆頭著者として掲載され、竹内先生は留学期間中に数々の重要な研究業績を成し遂げられました。

帰国後は横浜市立大学医学部眼科学教室に教員として復帰され、臨床と教育にわたる多大な貢献を続けてくださいました。その真摯な姿勢と卓越した能力で周囲の信頼を一層深めていかれました。また、研究の分野でも精力的にベーチェット病の遺伝学的研究を進め、日本国内での同疾患研究の第一人者としての地位を確立されました。世界の研究者とも連携し、ベーチェット病の国際共同研究の中心として活躍され、日本におけるベーチェット病診療ガイドラインの策定にも尽力されました。さらに、厚生労働省およびAMEDの臨床研究プロジェクトにおいて、ベーチェット病患者の臨床およびゲノムデータを収集する全国レジストリ研究の事務局長として、その立ち上げと運用においても中心的な役割を果たされました。

竹内先生は常に患者さんや同僚に温かな心で接し、その豊かな人間性と温厚なお人柄で、多くの人々に深く慕われていました。彼の臨床技術の高さと、研究に対する情熱は、私たちの励みであり、また彼の姿勢は常に私たちの模範でありました。特に、自己を犠牲にしてでも患者さんや研究に対する責任を最優先にされる竹内先生の姿勢は、私たち全員の心に深く刻まれています。

彼の最後の研究活動となった今回の渡航も、竹内先生にとって大きな意義のあるものであり、どれほどの決意をもって臨まれていたかを思うと、胸が痛む思いです。竹内先生が残された数々の功績は私たちの教室にとって計り知れない財産であり、先生の意思を引き継ぎ、今後の研究と医療に邁進することが、先生への何よりの報恩になると信じています。

竹内先生のご冥福を心よりお祈り申し上げるとともに、ご家族の皆様にも衷心よりお悔やみ申し上げます。

横浜市立大学医学部眼科学 主任教授 水木信久